

看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究科
附属看護実践研究指導センター

Center for Education and Research
in Nursing Practice,
Graduate School of Nursing,
Chiba University

— 教育・研究・実践をつなぐ —

2018-2019



CHIBA
UNIVERSITY

「千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター」とは

当センターは、昭和57年4月、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者の全国共同利用施設として設置され、看護学教育の質向上に向けて、調査研究や専門的研修を実施してきました。

平成22年度に「看護学教育研究共同利用拠点（拠点）」として認定され、平成27年4月1日から再認定を受け、第2期の活動を開始しました。看護師等の人材確保の促進に関する法律（平成4年）の制定後、看護系大学が急増し、教員の量的・質的確保や看護学固有の実習の質保証等の課題解決がもためられています。また、社会環境の変化にともない、看護人材への役割期待、卒業時の達成目標が変化しつつあります。35年間の看護系大学および大学病院等との連携実績を基盤に、こうした看護学分野固有の教育の質保証に関する課題に取り組んでいます。活動に際して大切にしていることは、看護学の発展、社会的要請に応える看護職の輩出、および看護の価値の創造に向けて「教育・研究・実践をつなぐ」ことです。

看護学教育研究共同利用拠点としての事業の特色・狙い

社会が期待する看護の価値の創造に向けて、実践－教育－研究をつなぎ、全国の看護系大学および地域の関連施設の機能の充実・発展をめざす

各看護系大学の自律的な教育の質保証／大学間の相互支援体制

拠点第1期の成果と課題をもとに、平成28年度から「看護学教育の継続的質改善（Continuous Quality Improvement:CQI）モデルの開発と活用推進」（平成31年度まで）に取り組んでいます。この事業の狙いは、各看護系大学が、自律的に教育の質を保証できるように支援すること、そのための手がかりとしてCQIモデルを開発し、各大学からの要請に応じて個別支援を行い、大学間の相互支援体制を構築することです。

FD 支援・SD 支援

当拠点は、看護系大学におけるFD（Faculty Development）支援に加え、各看護系大学の実習機関等における実践・教育環境の改善に資するSD（Staff Development）支援も実施し、看護学教育の質保証を目指す点に特色があります。

拠点の利用者と当センターの良循環

FD・SD支援は、各種の研修事業、ワークショップ、共同研究、個別支援で実施しています。その際、大事にしていることは、拠点の利用者と当センターが双方向の良循環をもつことです。拠点の利用者は、教育や実践の先端でしかわからない情報や課題をもってこられます。当センターは、その内容から看護学教育の質向上に向けたニーズを把握できることから、各種事業を計画します。拠点の利用者は各種事業を活用して看護学教育の質向上に向けた活動を推進していく。そのような良循環をつくることを事業の特色・狙いとしています。

「看護学教育研究共同利用拠点」とは

平成27年4月、全国で46施設が文部科学大臣より「教育関係共同拠点」として認定されています。「看護学教育研究共同利用拠点」はそのうちのひとつであり、かつ、看護学分野としては唯一の拠点です。教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことが重要であることから、平成21年9月に文部科学大臣によって創設されました。本制度の概要は以下のとおりです。

《制度の趣旨》

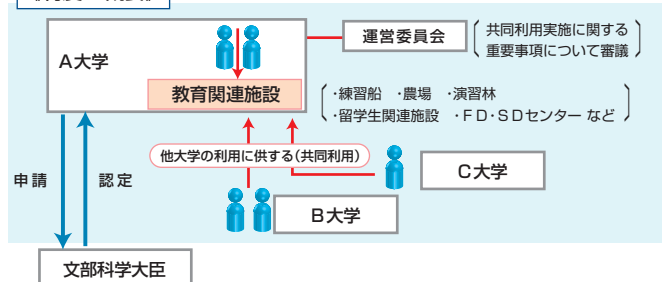
多様化する社会と学生のニーズに応えるべく、各大学において、それぞれの教育理念に基づいて機能別分化を図り、個性化・特色化を進めながら教育研究活動を展開していくことが重要。

質の高い教育を提供していくためには、個々の大学の取組だけでは限界があるため、他大学との連携を強化し、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等の有効活用を推進することにより、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことが必要不可欠。

大学の教育関連施設の共同利用の促進を図るための制度を創設し（「教育関係共同利用拠点」。21年9月より施行）、大学間連携を図る取組を一層推進。

*「学校教育法施行規則(第143条の2)」、「教育関係共同利用拠点の認定等に関する規程」(学術研究分野については、平成20年に「共同利用・共同研究拠点」を既に制度化)

《制度の概要》



【認定基準】

- 大学教育の充実に特に資すると認められるものであること
- 共同利用実施に関する重要事項について審議する委員会を置くこと
- 利用する大学を広く募集するものであること
- 共同利用に必要な設備・資料等を備えていること など

ご挨拶



千葉大学大学院看護学研究科
附属看護実践研究指導センター長

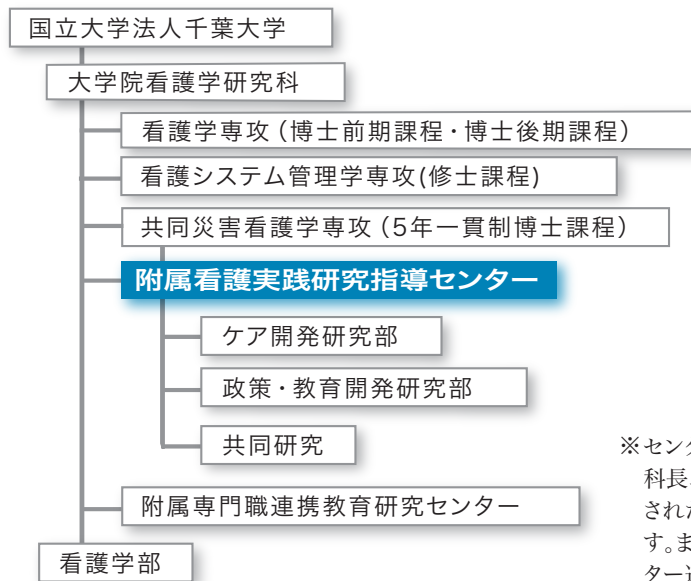
吉本 照子

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センターは、昭和57年4月、調査研究、専門的研修等必要な専門的業務を行うとともに、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者の利用に供することを目的として設置されました。設置以来、35年間、プロジェクト研究、看護学教育ワークショップ、看護学教育指導者研修、国公私立大学病院等の看護職を対象にした看護管理者研修および副看護部長研修等の実施を通して、看護学教育の質の向上に資する事業を行ってきました。

平成22年度には、文部科学大臣より「看護学教育研究共同利用拠点」として認定されました（平成27年再認定）。以来、拠点として活用され機能することをめざして、全国の看護系大学の教員、臨地実習を担当する国公私立大学病院等の医療施設の看護職を対象として、教育に関する研修事業（FD）、看護管理や医療専門職の実践に関する研修事業（SD）、共同研究事業を実施してきました。さらに、文部科学省の特別経費（高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実）による、「教育—研究—実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発」プロジェクト（平成22年度から5年間）、「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進」プロジェクト（平成23年から5年間）を実施し、対象者・専門分野に対応した体系的なプログラムの提供、および各看護系大学における効果的なFDの推進に資する事業に取り組んできました。平成28年度から新たに「看護学教育の継続的質改善モデルの開発と活用推進」に取り組んでいます。

本センターが、広く看護学教育に携わる皆様に活用され、延いては国民の健康増進に資するものとなるよう、今後も最善を尽くしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

組織



※センターの事業計画と重要事項を審議するため、研究科長、センター長、外部の学識経験者等の委員で構成された「センター運営協議会」を年に1回開催しています。また、事業計画と予算、管理運営を審議する「センター運営委員会」を毎月開催しています。

スタッフ

研究科長 中村 伸枝
センター長 吉本 照子

ケア開発研究部
教授 野地 有子
准教授 黒田 久美子
講師 赤沼 智子

政策・教育開発研究部
教授 和住 淑子
准教授 銭 淑君

プロジェクト
特任助教 稲垣 朱美

看護システム管理学専攻
病院看護システム管理学領域
教授 手島 恵

地域看護システム管理学領域
教授 吉本 照子
講師 飯野 理恵

ケア施設看護システム管理学領域
教授 酒井 郁子

事業概要

- 1.CQIモデル開発と活用推進プロジェクト
- 2.FD支援:看護学教育ワークショップ、FD企画者研修
- 3.SD支援:看護学教育指導者研修(ベーシックコース)、看護管理者研修(ベーシックコース)、国公私立大学病院副看護部長研修
- 4.共同研究
- 5.看護系大学への個別支援
- 6.情報発信・ネットワーク化

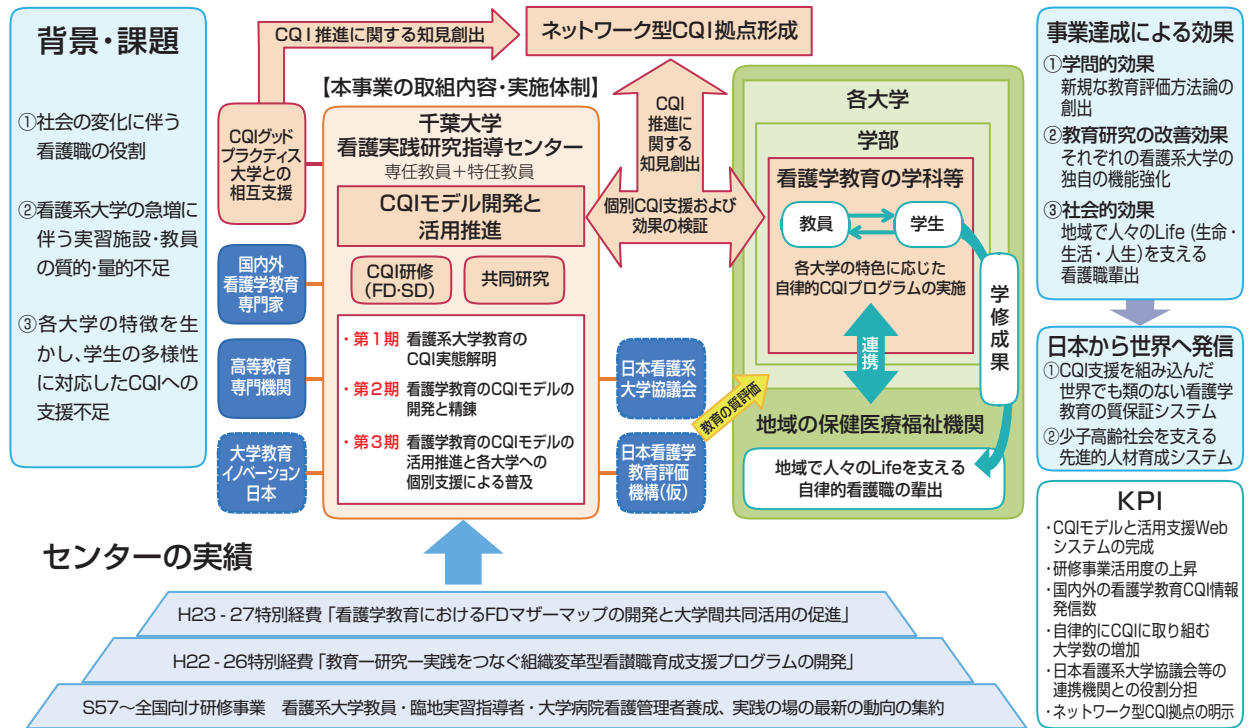
以上の6つの事業を中心に、その他必要な事業を展開しています。CQIモデル開発と活用推進プロジェクトや共同研究等の成果をFD支援、SD支援、個別支援で活用しています。

平成30年度 事業

1.CQIモデル開発と活用推進プロジェクト

目的 地域で人々のLife(生命・生活・人生)を支える看護職を輩出するために、看護学教育の継続的質改善(CQI: Continuous Quality Improvement)モデル開発および活用推進により、全国の看護系大学の自律的・持続的機能強化を支援する。

プロジェクトの全体図



事業進捗と計画

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
事業フェーズ	第1期:看護系大学教育のCQI実態解明	第2期:看護学	教育CQIモデル開発	第3期:CQIモデルの活用推進	
実施内容	CQIモデル開発	●CQI全国調査 ●CQI事例研究準備	●CQI全国調査 ●CQI事例研究 ●CQIモデル試案作成	●CQIモデル活用説明会実施 ●活用協力校の募集、選定、ルールの決定と共有 ●CQIモデルの精練・完成	●CQIモデル活用支援の効果検証 ●CQI推進者研修プログラムの開発 ●全国CQI調査の実施と分析
	CQI支援	●FDマザーマップ活用の効果検証	●各大学要請対応型CQI支援 ●FDマザーマップ活用型FD支援	●CQIモデル活用型CQI支援 ●各大学要請対応型CQI支援 ●FDマザーマップ活用型FD支援	●CQIモデル活用型CQI支援 ●各大学要請対応型CQI支援 ●FDマザーマップ活用型FD支援
		●CQI研修事業 ●CQIコンテンツ開発	●CQI研修事業 ●CQIコンテンツ開発	●CQI研修事業 ●CQIコンテンツ開発	●CQI研修事業 ●CQIコンテンツ開発
	ネットワーク型CQI相互支援体制の確立 事業評価と発信				

2.FD支援

看護学教育ワークショップ

- 対象:**全国の看護系大学の教員、大学院生(ワークの部分は原則准教授以上)
目的:全国の看護系大学が直面する課題等を取りあげ、自大学における自律的な教育の質改善への示唆を得る
期間:平成30年10月29日(月)～30日(火)
内容:講演・ワーク

FD企画者研修

- 対象:**看護系大学におけるFD企画者 原則として1大学2名1組、5組(10名)程度
目的:組織分析をもとに自大学の状況に即して系統的なFDを企画・実施・評価する能力を習得
期間:平成30年7月22日(日):講義・グループ討議
平成30年8月22日(水)～24日(金):演習・グループ討議
平成30年9月～平成31年3月:個別相談、検討
平成31年3月:報告会

3.SD支援

国公私立大学病院副看護部長研修

- 対象:**大学病院の上級看護管理者 20名
目的:社会的要請に即した医療の充実に向けて、組織変革を計画・実施・評価する能力を獲得する
期間:I 平成30年5月29日(火)～31日(木) 講義
II 平成30年9月4日(火)～7日(金) 演習・グループ討議
III 平成31年2月28日(木)～3月1日(金) 報告会

看護学教育指導者研修(ベーシックコース)

- 対象:**看護学生を直接指導する臨地実習施設の看護職 50名
目的:看護系大学と連携して社会の変化に即した看護学教育を行うための知識・スキルを学ぶ
期間:平成30年8月22日(水)～24日(金)
内容:講義・演習

看護管理者研修(ベーシックコース)

- 対象:**急性期病院の看護管理者(看護師長相当) 100名
目的:医療提供体制の変化に即した組織的課題を解決する能力を開発し、看護本来の役割発揮を支援する
期間:平成30年9月26日(水)～28日(金)
内容:講義・演習

4.共同研究

前年度末に共同研究員の募集を行っています。以下は、平成30年度の共同研究のテーマです。

FDプログラム開発研究

- 研究1. 教員としての教育観とその背景にある組織のあり方を考える看護学教員向けFDコンテンツの開発と評価
研究2. 合理的配慮を要する学生の臨地実習の質保証に向けたFDプログラム開発
研究3. FDコンテンツ開発(国際)－10～20年後を見据えたグローバル人材育成と国際交流推進－

SDプログラム開発研究

- 研究4. 組織の現状を踏まえた研修企画を支援する方法の開発
研究5. 看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究
研究6. 公的病院におけるELNEC教育プログラムの開発

5.看護系大学への個別支援

- ・FDマザーマップ®活用支援
- ・FDコンサルテーション
- ・各看護系大学から要請されるCQI支援

6. 情報発信・ネットワーク化

各種コンテンツ・データベース



当センターで実施した事業成果である各種コンテンツをホームページからダウンロードできるようにしています。
ご活用いただき、活用の成果をセンターと共有させていただきたいと考えています。

○FDマザーマップ®Ver.3

看護系大学教員に必要な能力のうち、特に看護に特化した能力を網羅的に示したもので、「基盤」「教育」「研究」「社会貢献」「運営」の要素からなります。組織としてFDの課題を見出す、体系的なFDに向けて整理する、個人の能力を各自が評価するためにも使えます。

使用してもらいながら、見直しを行い、現在、Ver.3を掲載しています。日本語版に加え、英語版、中国語版も作成しています。



○FDマザーマップ®支援データベース

FDマザーマップ®の特徴やさまざまな活用方法、FDコンテンツ、FD実績表を掲載しています。

FD実績表は、登録している看護系大学が実際に行ったFDの実績の記録を掲載しています。公開されている他大学のFDの企画は、自大学のFD企画のヒントになります。



FDマザーマップ®支援データベース簡単ガイド

- FDマザーマップ®のページを選択すると利用規約が表示される
- 「利用規約に同意する」選択後、右図が表示される
- 基盤・教育・研究・社会貢献・運営を選択すると、各要素がポップアップされ、FDマザーマップのチェックができる
- FDマザーマップのチェック画面の使い方

各要素のクリックで、詳細表示

クリックでレベルにマーク（複数選択可）

社会貢献	研究	教育	基盤	運営
社会貢献の企画・実施	研究の企画・実施	教育の企画・実施	基盤の企画・実施	運営の企画・実施
社会貢献の企画・実施	研究の企画・実施	教育の企画・実施	基盤の企画・実施	運営の企画・実施
社会貢献の企画・実施	研究の企画・実施	教育の企画・実施	基盤の企画・実施	運営の企画・実施
社会貢献の企画・実施	研究の企画・実施	教育の企画・実施	基盤の企画・実施	運営の企画・実施
社会貢献の企画・実施	研究の企画・実施	教育の企画・実施	基盤の企画・実施	運営の企画・実施

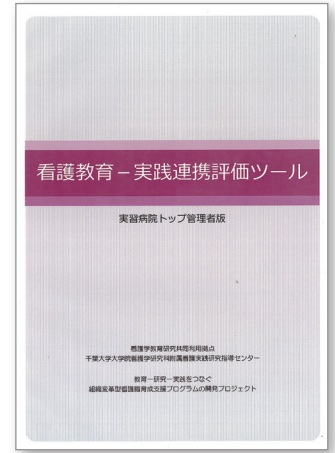
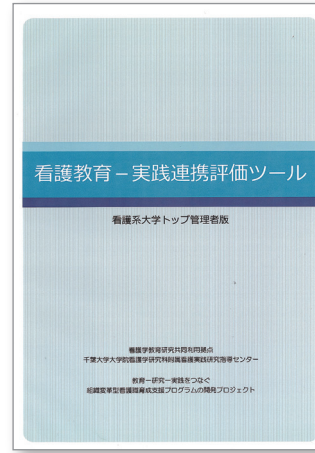
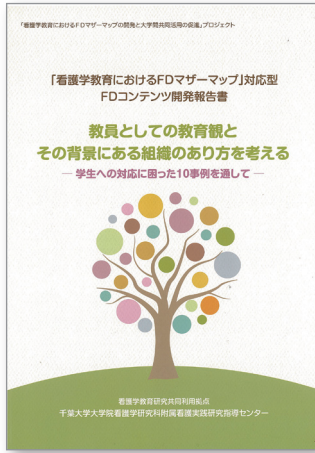
登録大学が公開しているFD実績表や当センターが限定したFDコンテンツを参照できる

<個人としての活用例>

- 自分のこれまでのFD研修受講履歴を整理し、今後の受講計画を立てる
- 自己評価し、自分のFD課題を見出す

○FDコンテンツ

FD研修に活用できるコンテンツを各種掲載しています。
看護学教育指導者研修での講義の動画もダウンロード可能です。



○組織変革型支援育成データベース

国公立大学病院副看護部長研修における参加者の実施したプロジェクト実践報告書をデータベース化し、公開しています。この実践報告書は、執筆者の承諾を得て公開しており、多様な取り組みを検索することができます。



拠点インフォメーションメール

拠点インフォメーションメールは、拠点からの情報発信力を高め、拠点をご活用いただく方々、機関との連携・共同をさらにすすめるためのものです。旧メーリングリストを発展させ簡単な登録としました。郵送とホームページからの発信に加え、当センターからの各種の情報提供を実施しておりますので、是非ご登録ください。

拠点インフォメーションメール 登録方法

申込先：kango-CQI@chiba-u.jp
件名：(〇〇大学) 拠点インフォメーションメール登録申し込み
必須記載事項：担当窓口部署、窓口担当者名

個人情報の取り扱い方については、HPをご参照下さい。
<https://www.n.chiba-u.jp/center/network/mailing.html>

事業実績

平成22年度～平成29年度の拠点利用実績

(単位:人)

北海道・東北ブロック

看護学教育指導者研修	37	FD企画者研修	0
看護学教育ワークショップ	93	FD支援データベース登録	4
国公立大学病院副看護部長研修	22	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	5
看護管理者研修	67		

関東ブロック

看護学教育指導者研修	103	FD企画者研修	6
看護学教育ワークショップ	262	FD支援データベース登録	12
国公立大学病院副看護部長研修	58	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	7
看護管理者研修	2778		

中部ブロック

看護学教育指導者研修	52	FD企画者研修	0
看護学教育ワークショップ	138	FD支援データベース登録	4
国公立大学病院副看護部長研修	44	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	9
看護管理者研修	105		

関西ブロック

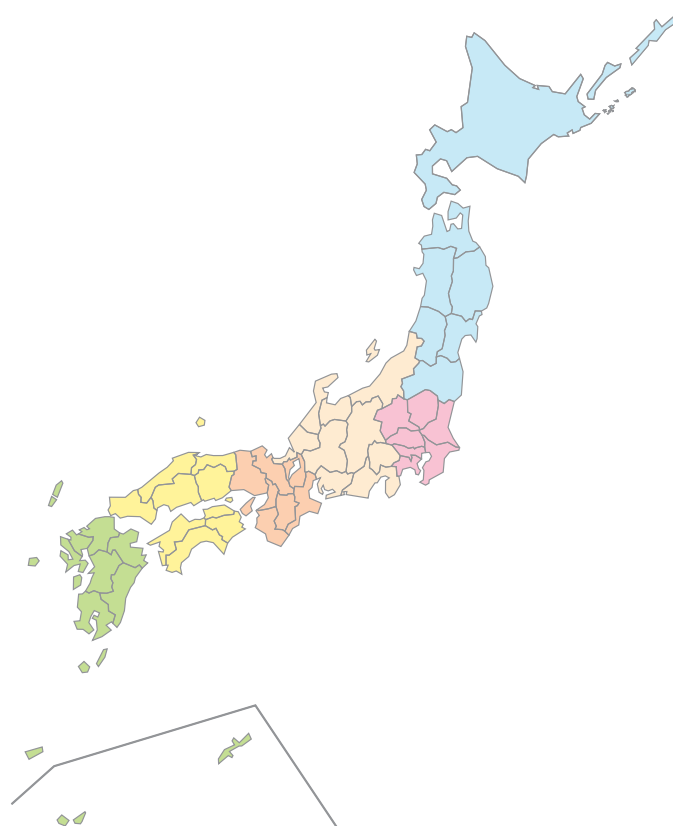
看護学教育指導者研修	27	FD企画者研修	2
看護学教育ワークショップ	105	FD支援データベース登録	7
国公立大学病院副看護部長研修	20	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	4
看護管理者研修	80		

中国・四国ブロック

看護学教育指導者研修	32	FD企画者研修	0
看護学教育ワークショップ	104	FD支援データベース登録	7
国公立大学病院副看護部長研修	19	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	0
看護管理者研修	74		

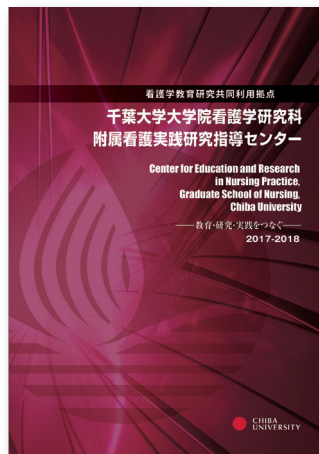
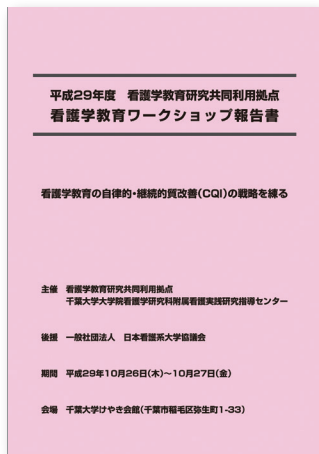
九州・沖縄ブロック

看護学教育指導者研修	37	FD企画者研修	2
看護学教育ワークショップ	94	FD支援データベース登録	5
国公立大学病院副看護部長研修	26	看護系大学への講師派遣・ コンサルテーション	5
看護管理者研修	103		



定期刊行物

- ・看護実践研究指導センター年報（昭和57年度ー）
- ・看護学教育ワークショップ報告書（平成19年度ー）
- ・千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター（センターパンフレット）平成23年度ー
- ・ニュースレター（平成23年度ー）



報告書

- ・文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究受託事業 看護師等の卒業時到達目標等に関する調査・研究 学士課程における看護実践能力と卒業時到達目標の達成状況の検証・評価方法の開発（平成27-29年度）最終報告書,平成30年3月
- ・文部科学省特別経費（プロジェクト分）看護学教育の継続的質改善（CQI: Continuous Quality Improvement）モデル開発と活用推進プロジェクト 大学における看護学教育の継続的質改善（CQI）活動と背景要因に関する研究報告書,平成29年10月



平成22年度～平成29年度の拠点利用実績

(単位:人)

年度別事業別の受講者数(単位:人)

平成30年2月20日現在

事業名 年度	センター 共同研究	センター プロジェクト研究	センター 研 修	センター テーマ別 研究研修	看護婦学 校看護教 員講習会	認定看 護師教 育課程	国公立 大学病院 副看護部 長 研修	看護学教 育指導者 研 修	看護学教育 指導者研修 (ベーシック コース)	看護学教育 指導者研修 (アドバンス コース)注2	国公立 大学病院 看護管理 者 研修	看護管理者 研修(ベー シックコー ス)注1	看護管理者 研修(アドバ ンスコー ス)注2	FD企画 者 研修	看護学教 育ワー クショ ップ	計
昭和57年度	8		12								67					87
昭和58年度	14		8								79					101
昭和59年度	17		8								73					98
昭和60年度	21		10		38						74					143
昭和61年度	22		13		36						70					141
昭和62年度	24		14		38						76					152
昭和63年度	23		20		39						74					156
平成元年度	29		15		40						72					156
平成2年度	28		15		36						76					155
平成3年度	29		15		39						72					155
平成4年度	23		18		39						72					152
平成5年度	28		18		43						75					164
平成6年度	24		19		40						72					155
平成7年度	20		17		38						80					155
平成8年度	17		24		40						79					160
平成9年度	12		22		40						81					155
平成10年度	13		15		32						78					138
平成11年度	14		18		31						78				62	203
平成12年度		16		18				22			74				81	211
平成13年度		22		18				20			76				93	229
平成14年度		20		0				24			79				82	205
平成15年度		21		16				13			73				79	202
平成16年度		27		16				18			86				91	238
平成17年度		29		12		21		12			79				89	242
平成18年度		21		9		30	21	14			81				87	263
平成19年度		6				30	25	22			80				112	275
平成20年度		12				30	28	19			83				84	256
平成21年度		14				27	32	16			77				84	250
平成22年度	6	9				27	30	19			88				80	259
平成23年度	11	7				26	18	22			79				82	245
平成24年度	12	8				26	25	20			75				53	219
平成25年度	24	21				23	23		38			80			58	267
平成26年度	21	17				25	22		51			88			53	277
平成27年度		29				24	29		44	(2)		95	(3)		64	290
平成28年度		41				24	22		52	(1)		103	(3)		70	316
平成29年度	28						20		39			98		10	67	262
計	468	320	281	89	569	313	295	241	224	(2)	2,378	464	(3)	10	1,471	7,132

注1:看護管理者研修(ベーシックコース)の平成25年度、平成26年度は国公立大学病院看護管理者研修(ベーシックコース)として開講

注2:看護学教育指導者研修(アドバンスコース)及び看護管理者研修(アドバンスコース)の受講者数はプロジェクト研究として募集し、2年間で実施するため()は同一受講者

注3:平成29年度看護管理者研修:受講者の都合による未修了者2名含む

Director 's Message

The Center for Education and Research in Nursing Practice of the Graduate School of Nursing of Chiba University was established in April 1982 to conduct research and to provide specialist training and support program for nursing faculty, administrator and researcher.

We were certified as a "Center of Collaboration for Nursing Education and Research" by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in March, 2010, and reissued in 2015 for next five years. We hope that a wide range of nursing professionals use our center and that we contribute to the increased health of the people in our global communities. We hope you will join our efforts.



Education & Reseach Programs

Project: Bridging Education, Research and Practice :Development of a program for Structural Reform in Nursing (FY 2010-2014)

This project was started to deal with the lack of sufficient numbers of facilities for clinical practice and clinical faculties of nursing practice, problems that are associated with the current need for an advanced level of nursing education and increasing in the number of new nursing schools. We had developed three refrection frameworks and two relationship evaluation tools between nursing education and clinical practice. We also had developed seven continue education programs, and promoted structural reform in nursing both education and practice.

Project: Mother Map of Faculty Development in Nursing Education (FY 2011-2015)

This project had constructed a mother map of faculty development in nursing education and promoted collaborative activities between universities. We had developed a master plan of faculty development (FD) (called FD mother map), and data base for FD planning to keep pace with progress towards higher levels of professionalism and a more highly educated university-based student body.

Project: CQI (Continuous Quality Improvement) in Nursing Education (FY 2016-2019)

The above projects are going to the advanced stage with another special grant from MEXT for promoting Continuous Quality Improvement (CQI) in nursing Education. This project conducted nationwide survey and clarified facts of CQI conditions, training courses and workshop for FD, and provided CQI consultations. The goal of this project is creating CQI model for supporting nursing schools' autonomic and sustainable strengthen.

Faculty

Dean Nobue Nakamura, RN, PHN, Ph.D

Director of the Center Teruko Yoshimoto, RN,PHN,Ph.D

Nursing Care Development & Evaluation

Professor Ariko Noji, RN, PHN, MHS, Ph.D

Associate Professor Kumiko Kuroda, RN, PHN, Ph.D

Associate Professor Tomoko Akanuma, RN, MEd

Nursing Systems Management

Hospital Nursing Systems Management

Professor Megumi Teshima, RN, MSN

Nursing Policy and Education Development

Professor Yoshiko Wazumi, RN, PHN, Ph.D

Associate Professor Shu-Chun Chien, RN, PHN,Ph.D

Community Nursing Systems Management

Professor Teruko Yoshimoto, RN, PHN, Ph.D

Associate Professor Rie Iino, RN, PHN, Ph.D

Research Projects

Assistant Professor Akemi Inagaki,RN,MSN

Long Term Care Facilities Nursing Systems Management

Professor Ikuko Sakai, RN, PHN, MHS, Ph.D

看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究科 附属看護実践研究指導センター

**Center for Education and Research
in Nursing Practice,
Graduate School of Nursing,
Chiba University**



研究成果は、当センターのホームページで報告しています。

センターURL

<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

報告書を送付することもできます。

センターメール:

nursing-practice@office.chiba-u.jp

〒260-8672

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL 043-226-2377・2464(看護学部事務部)

URL <https://www.n.chiba-u.jp/center/>

[亥鼻キャンパスへのアクセス]

JR総武線千葉駅下車

東口7番バス乗り場より「千葉大学病院行き」

または「南矢作行き」のバスに乗り、

「千葉大医学部入口」下車



R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています



印刷には大豆油インキを使用しています